

# 弥生人とは誰か

## —考古学・人類学が明らかにする最新弥生人像

弥生時代は、古代国家としての日本が形作られる契機となった重要な時代です。佐賀県には、吉野ヶ里遺跡をはじめとする弥生時代を代表する多くの遺跡が存在し、その研究は、弥生時代の理解に大きな役割を担ってきました。一方で、年代測定やDNA分析などの科学分析の手法が発達したことによって、近年では従来とは異なる弥生時代の姿が浮かび上がってきています。日本人類学会が主催する本シンポジウムでは、特に弥生時代の人々に注目し、考古学、形質人類学、DNA人類学の最新研究が導きだした最新の弥生人像を紹介します。



### 講演1 「弥生人の考古学的プロフィール」

水田稲作の開始年代が紀元前10世紀までさかのぼったことによって、弥生人の考古学的なプロフィールに混乱が生じている。本講演では考古学からみた最新の弥生人像に迫る。

藤尾 慎一郎 (ふじおしんいちろう) 国立歴史民俗博物館・教授

高校3年間を佐賀で過ごす。学生時代は九州横断自動車建設に伴う事前の発掘に参加。九州大学考古学研究室の助手をへて、1988年より千葉へ。著書に「弥生時代の歴史」(講談社現代新書)、「再考・縄文と弥生」(吉川弘文館)などがある。

### 講演2 「人骨の形態から知る初期稲作農耕民の姿」

弥生時代の渡来人が稲作文化を日本列島に伝えたことはよく知られているが、その水田稲作の起源地にて、弥生人の祖先集団がいかに形成され、新たな生業に適応した結果何が起こったのかについては不明な点が多い。本講演では、2014年以降の日中共同研究によって整理された長江デルタ地域の新石器時代人骨から初期稲作農耕民の姿を読み解く。

岡崎 健治 (おかざき けんじ) 鳥取大学医学部・助教

1975年生まれ。博士(理学)。日本学術振興会の海外特別研究員、国立台湾大学医学院のポストドク研究員を経て2012年より鳥取大学医学部解剖学講座勤務。海外での古人骨の発掘、クリーニング作業に携わり、骨の形態や疾患から、日本人の起源を含めた東アジアの人類史を研究している。著書に「縄文・弥生・中世・近現代人の成長パターン-未成人骨格資料から探る形態発現と生活環境-」(花書院)がある。



### 講演3 「DNAから見た弥生人」

DNAの解析技術が進歩したことで、現在では古代人の骨からもDNAを抽出して解析する事が可能になっている。特に最近では核のDNAが解析できるようになったことで、古代人の遺伝的な特徴を詳しく知ることができるようになった。今回の講演では、これまで分析された弥生人のDNA研究の成果を紹介し、その特徴について解説する。

篠田 謙一 (しのだけんいち) 国立科学博物館副館長・人類研究部長

1955年生まれ。博士(医学)。佐賀医科大学助教授を経て2003年より国立科学博物館勤務。古人骨のDNAを分析し、日本人の起源や成立の問題を研究している。著書に「日本人になった祖先たち」(NHK出版)、「DNAで語る日本人起源論」[江戸の骨は語る-甕った宣教師シドッチのDNA-] (いずれも岩波書店) などがある。

